

令和3年度 甲賀市教育委員・社会教育委員懇談会

日時：令和4年（2022年）1月26日（水）

16時00分～17時00分

場所：甲賀市役所3階301会議室

- <出席者> 順不同
- （教 育 長） 西村教育長
- （教 育 委 員） 山脇委員、松山委員、野口委員、藤田委員
- （社会教育委員） 姉川委員、山本委員、沢井委員、西村委員、土田委員、石田委員
上甲委員、岡村委員
- （事 務 局） （教育委員会事務局） 山本部長、田村次長
（教育総務課） 谷課長
（学校教育課） 乾次長
（社会教育スポーツ課） 杉本課長、岡崎参事、上村補佐、森地指導員
- （傍 聴 者） なし
- （出 席 数） 教育委員4名全員出席、社会教育委員13名の内、8名が出席。
今回の会議は、懇談会のため、定足数の規定はなし。

○市民憲章唱和

<次第> 進行：杉本課長

1. 開会あいさつ

山本部長…今回は、2回目の懇談会となるが、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動のテーマにかかわらず、今後もこのような場を持っていきたい。委員の皆様には、地域の状況とか個人の知見をお出しいただき、教育委員会として、賜ったご意見を集約していきたい。

杉本課長…前回の懇談会では時間不足だったので、今回は委員相互の共通理解を進めたい。山本委員には、前回の振り返りをお願いしたい。

姉川委員長…本日の懇談会の意義について説明。

山本副委員長…「動く教育委員・社会教育委員」を目指したい。

乾次長…コミュニティ・スクールの取り組みについての現状報告。今年度10校の校長を集め、年3回の会議を開催。県からも現状報告をもらった。徐々に拡大して

いく方向にある。中学校への浸透に課題がある。他市の取り組みを参考にして進めたい。

2. 懇談会

(事務局)

- ・本事業は、中学校区で進めることも検討している。
- ・社会教育スポーツ課だけでは進めることができないので、公民館職員も活用して推進を図っていききたい。当面、5校分の予算措置は行った。

(教育委員)

- ・「ともに動く教育委員・社会教育委員」の方向は共通理解できる。
社会教育委員と地域との関わりはどのようになっているのか。

(社会教育委員)

- ・自治振興会との関わりに地域による温度差がある。
- ・「行動する社会教育委員」との方向だが、今やっとテーマに関する理解ができたところで、地域や施設に落していく方法や手順については、これからの課題になる。

(教育委員)

- ・只今の委員には、地域に深い関わりを持っておられる貴重な人材だと思う。
- ・自治振興会は会長が代わってもできる体制をもつことが大事。
- ・地域の行事に子どもが来て、年寄りがそれを見守る。地域を巻き込んだ行事を企画したい。

(社会教育委員)

- ・今までの地域活動を見直していききたい。
- ・我々が取り組んでいるテーマで、何ができれば、各組織を結び付け活用できるようになるのかを考えたい。
- ・提言書具現化のプロセスを明らかにしたい。

(事務局)

- ・提言書に基づき進めているところである。

(社会教育委員)

- ・教育は「人」。ボランティアに頼っているだけではいけない。
- ・自治振興会との協働だが、温度差が大きい。教委部局と市長部局との連携強化が求められる。

(事務局)

- ・自治振興会と公民館との連携強化を図りたい。

(社会教育委員)

- ・社会教育課と学校教育課との連携が始めからとれていない。
- ・地域活動を活性化するには、地域マネージャー（自治振）・地域コーディネーター（学校）、社会教育指導員（公民館）の連携・活用が大事。

- ・それぞれの機関が多くのことを行っているのに、実が出ていない。
- ・主任児童委員も活用したい。
- ・核になる人材にもっと支援が必要。
- ・校長が全てするではダメで、教育委員会がもっと支援すべき。
- ・貴生川地区の取り組みが参考になる。「挨拶のできる子を育てる」の目標も具体的でよい。のぼり旗の作成が始まっている。

(教育委員)

- ・企業からの参画も求めていきたい。
- ・社会教育コーディネーターの予算はついたが、情報交換の場がなくては機能しない。
- ・課題解決には、やはり「人」を育てないといけない。
- ・大原の「スマイル校舎」に学びたい。年寄サロンや子ども食事、外国人サロン、課題のある子…への支援。
- ・市全体の問題として、課題のある子への支援に関するガイドラインを示すべき。

(社会教育委員)

- ・社会教育委員の取り組みを地域学校協働活動やコミュニティ・スクールを手掛かりとして、提言書の要点を地域に伝えていきたい。
- ・コミュニティ・スクールの取り組み、現在土山と貴生川だけであるが、他の校長の歯切れが悪いのは、今迄からPTA活動などで進められているという意識が強いのではないか。
- ・学校がリーダーシップをとって地域への声かけを行うのはハードルが高い。教育委員会が、地域学校協働本部の立ち上げについてコーディネートしてほしい。
- ・地元自治振興会の会長が、連携・協働のガイドラインを示してほしいといていた。
- ・CSだけを進めるのではいけない。やはり、CSと地域学校協働活動の一体的推進を図りたい。

(教育委員)

- ・企業側からの意見になるが、地域事業に参画したいと思っている事業所も多い。
- ・学校の職場体験事業を受け入れている企業も多く実績もある。
- ・まだ、全体が見えていないので、個人としてどうすればよいかが見えない。
- ・ただ、「人選びをどうするか」が一番重要なことである。
- ・提言書を受けて、教育委員としてどう動くかを考えている段階である。

(社会教育委員)

- ・学校へ負担がかかる制度になってしまっているのはいけない。地域の声を学校に反映するのが、CSの趣旨である。
- ・社会教育委員も教育委員も新しい動きを模索していきたい。
- ・高齢化・少子化・外国人問題…教育課題は山積しているが、地域の事情や成功事例をデータ化し、マニュアル化に進めたい。
- ・甲賀市は、CS・地域学校協働活動ともに遅れているが、積極的なアクションを起こ

したい。

(事務局)

・我々も地域の中へ入りながら進めていきたい。

3、その他

連絡事項